

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	岐阜工業高等専門学校
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ギフコウギョウコウトウセンモンガッコウ
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立高等専門学校
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	校外実習
	学部・研究科等名	本科
	担当教職員名・役職	研究主事 和田清、技術教育部門長 山田実、第4学年担任 石丸和博、富田陸雄、森口博文、水野和憲、清水隆宏、技術室技術長 加藤 真二、学生課教務係
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	154
	受入企業等数	149
受入企業等名	東邦ガス(株)、大阪ガス(株)、東京ガス(株)、中部電力(株)、(株)大林組、岐阜プラスチック工業、JAL、東芝メディカルシステムズ(株)、日鉄住金環境(株)、日本特殊陶業(株)、(株)LIXIL、(株)安部日鋼工業、(株)市川工務店、大日コンサルタント(株)、(株)キクチコンサルタント、NTTインフラネット(株)、(株)テイコク、関西電力(株)、戸田建設(株)、中部地方整備局岐阜国道工事事務所、名古屋港管理組合、岐阜県庁、名古屋市役所、岐阜市役所、大垣市役所、本巣市役所、東京水道サービス(株)、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学ほか	
インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業等において就業体験を伴う次のような実習や体験をしている。・工場にてNC旋盤、マシニングセンターを用いた機械加工、製品の組み立てや検査等の実習。・CADのソフトを使って実際の部品から図面の製作。・プログラミング言語を学び、スマートフォン向けのアプリの開発。・与えられた課題に対してグループでディスカッションし、ものづくりの体験。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	おもに第4学年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位または1単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則として2週間以上(実習日10日以上)で2単位とするが、実習期間が5日以上の場合には1単位として認定する。おもに本科第4学年を対象に、夏期休業期間中に5日以上インターンシップを行うことで単位認定を認める「校外実習」を実施している。本科目では、学生に工学上の学術応用を実地で体験させ、併せて技術者としての心構えを養わせることを目的としている。なお、認定された単位は卒業要件に含まれない。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全3回の事前学習の中で、インターンシップの趣旨・目的の理解、県内の状況、参加するにあたって自己分析の始め方(第1回)や、企業担当者との直接面談(第2回)、社会人としての実践マナーを学ぶこと(第3回)等を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ後には実習報告書と日誌の提出を義務づけている。学科別に教員・学生が参加するインターンシップ報告会を開催し、実施内容を発表する機会を設けている。また、インターンシップ最終日に受入企業内で報告会を開催している所もある。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実施期間中に教員が受入企業へ赴き、担当者から実施内容の聞き取りや学生と面談を行なっている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ後にPROGという社会で求められているジェネリックスキルを定量的に測定するテストを実施した。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間、または10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間、または10日間
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施期間は原則5日以上を依頼し、企業によっては10日実施している。また、複数の企業で実施する場合もある。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ企業にはインターンシップ実施後、校外実習証明書を提出していただき、評価と実習態度についての総合所見、今後本人を指導するうえでの参考事項等を記入してもらっている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	岐阜工業高等専門学校
	担当部署名	学生課教務係
	担当者役職名	係員
	担当者氏名	鶴飼 智恵子
	電話番号	058-320-1252
	メールアドレス	kyoumu@gifu-nct.ac.jp